日本感情心理学会員が考える「感情とは何か」(1)

—感情＝情動なのか—

○白井真理子¹ 武藤世良² 中村真³

(¹同志社大学心理学部 ²お茶の水女子大学教学 IR・教育開発・学修支援センター ³宇都宮大学国際学部)

Key words: emotion, feeling, feature

目 的

感情は、学術分野のみならず、日常生活にも広く関わる概念である。しかしながらその特性がゆえ、“Everyone knows what an emotion is, until asked to give a definition. Then, it seems no one knows.” (Fehr & Russell, 1984) という有名な言葉に代表されるように、「感情」の定義に関しては、感情研究者間であっても明確な合意が得られていない。

そこで本研究では、感情心理学者がどのように感情という概念を定義しているのか、また、感情の定義に関わる諸問題についてどのように考えているのか、その現状を Web 調査により把握し、今後の感情研究の方向性を提案することを目的とする。

本発表では、参加者が評定した感情と情動の定義的特徴の 18 項目から、感情と情動の特徴の共通点および差異について検討する。

方 法

本研究は武藤・白井・中村 (2020) と同時に実施された。

■参加者： 日本感情心理学会の会員を対象に Web 調査を実施した。Web 調査にアクセスをした 167 名のうち、本研究の分析対象となる項目データの欠損がない 94 名 (男性 59 名、女性 23 名、その他 4 名、無回答 8 名；平均年齢 41.5 歳 ($n = 84$; $SD = 12.1$, レンジ: 23~72)) を分析の対象とした。分析対象者の感情研究歴の平均は 14.39 年 ($n = 80$; $SD = 10.50$, レンジ: 0~50) であり、年齢と感情研究歴の相関係数は有意であった ($r = .77$, $n = 80$, $p < .01$)。

■調査概要： 調査項目は、第 1 著者と第 2 著者がこれまで企画してきた日本感情心理学会第 25~27 回大会プレカンファレンス「今、改めて問う『感情とは何か』(1)~(3)」の一連の成果と課題を踏まえて作成された。

調査は主に (a) 感情・情動の定義の自由記述, (b) 感情・情動の定義的特徴に関する評定 (Izard, 2010 も参考), (c) 英語の感情用語の訳の実態調査および定訳案, の 3 つのセクションから構成されていた。本発表では, (b) の 18 項目の評定に関する分析結果を報告する。

本調査で用いた 18 項目は, 「1. 刺激によって駆動するもの」「2. 単純な快・不快とは異なるもの」「3. 人間らしいもの」「4. 行動を動機づけるもの (行為傾向や行為の準備状態も含む)」「5. 内受容感覚 (内臓など, 自身の身体内部からの感覚) が感じられたもの」「6. 他者や社会と共有するもの (言語使用も含む)」「7. 主観的情感 (気持ち)」「8. 顔表情・音声・姿勢・行動などの表出・運動」「9. 強度 (強い・弱い) だけでは表せないもの」「10. 言語化が必要なもの」「11. 生理反応・身体内部の変化」「12. 対象や出来事の認知的評価 (無意識的・自動的な評価も含む)」「13. 生存に関わるもの」「14. 無意識かもしれないもの」「15. 脳に関係したもの」「16. 個別にあって, それぞれ異なるもの」「17. 組織化された反応のセット」「18. 適応的・対処的機能を備えたもの」であった。参加者は, 感情および情動に対して, 上記 18 項目がそれぞれの程度あてはまるかについて, 「1. 全くあてはまらない」から「5. 非常にあてはまる」の 5 件法で評定を行った。回答順序および項目の提示順序はすべてランダム化された。

■手続き： 本研究は「感情の定義の多義性を考える」という企画名で, 日本感情心理学会学術プログラム委員会の承認を受けて実施された。Web 調査は, 2019 年 6 月 28 日~9 月 30 日に Qualtrics を用いて実施した。

なお, アンケート中の「感情」という言葉に関しては, 調査冒頭に「本調査では, 便宜上『感情』という言葉を用いていますが, 『感情』の定義や意味は回答者の皆様にゆだねられています」と教示し, 調査への回答を求めた。

結 果

参加者ごとに感情に対する項目の評定値から情動に対する項目の評定値を減算し, 「感情と情動の差」とした。「0」を感情と情動の差がないものと仮定し, 各項目の「感情と情動の差」の平均値に対してワンサンプルの t 検定を行った (図 1)。

図 1 18 項目に対する感情と情動の評定値差。

注) 四角で囲われた 4 項目は 0 との有意差がなかった。四角より左の項目は, 評定値差が 0 より有意に小さく (= 情動によりあてはまる項目), 四角より右の項目は評定値差が 0 より有意に大きかった (= 感情によりあてはまる項目)。項目の数値は, 項目番号を示している。

考 察

日本感情心理学会員が評定した感情と情動の定義的特徴の 18 項目に関して, 感情と情動の特徴の共通点や差異を検討した。その結果, 「4. 行動を動機づけるもの」「18. 適応的・対処的機能を備えたもの」といった機能的側面は, 感情と情動が共通に持ちうる特徴であることが示された。情動がよりあてはまるとされた項目は, 「1. 刺激によって駆動するもの」や「11. 生理反応・身体内部の変化」であり, 情動は生体システムの反応であると認識されている可能性が示された。一方, 感情がよりあてはまるとされた項目は, 「7. 主観的情感」や「3. 人間らしい」であり, 感情は, より高次な認知活動を反映するものと捉えられている可能性が示された。

謝 辞

本調査にご協力いただいた学会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

(Mariko SHIRAI, Sera MUTO, Makoto NAKAMURA)